

# 第 1 部 FLY

Safe at home (2・3・4年合同) <サウザー・ヒルマン・ヒューレイ・バンド> arr by 小林正治  
ラテン的なリズム感覚を伺わせながら、コンサートの幕開けです。ハードなギターのと重々しいドラムスの音、それに誘われたかのように出てくる30名のヴォーカルが聞こえてきます。

Takin' it easy (2・3年合同) <シールズ&クロフツ> arr by 伊藤明博  
騒々しい都会で生きる人々は、おのずと暖かい太陽の光の中での生活を夢みるものです。オープニング2曲目は、そんな気持ちをこめたKW '77, 78 の陽気な歌声をお聞かせします。

Point of know return (2年) <カンサス> arr by 伊藤英治  
我々の人生を航海にたとえるなら、その終わりは“帰らざる地点”。中世欧州の冒険者たちはこの地点を目指し、荒波に帆船を出航させたのです。今やアメリカンロックの頂点を為すカンサスに、我々2年が挑みます。

Beneath still waters (2年) <エミルー・ハリス> arr by 伊藤英治  
「どんなにお馬鹿さんでも、あなたが行ってしまう事はわかったでしょうに。静かな河の流れの底で、あなたの愛は消えてしまった…」そんな女心が今、澄んだヴォーカルに託されあなたのもとへ。

Whenever I call you, friend (3年) <ケニー・ロギンス> arr by 伊藤明博  
2人の誓いは一時の感情でなく、お互いを深く理解し合った時に生まれたもの。ちょっと縁遠いKW '77, それでもかわいらしい(?)女の子3人をメインに、甘くさわやかに歌ってみたいものです。

カチューシャ(3年) <ロシア民謡> arr by 松井弘樹  
時が来て幾世紀にもわたる重荷をはらい、人々は敵に向かって立ち上がった。おお歌よ、遠い国境で戦う兵士に、少女の挨拶を届けてやれ。昨年にひきつづいて、KW '77 がスラブの心を歌います。

Here come those tears again (4年) <ジャクソン・ブラウン> arr by 橋本武寛  
この曲は我々が二年生の時に挑戦した曲で、今再び日の目を見る事になりました。あの時の涙が再び甦えるではありませんか。

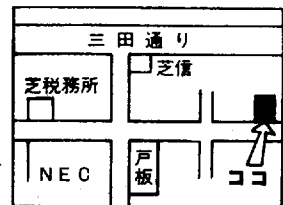
Sinner Man (4年) <トラディショナル> arr by K. W.  
学生なんて叩けば埃の出る体。4年間にいつの間にか積み重なった罪悪の数々。その逃れられない罪の十字架を背負いつつ、この歌うなんて、神様は何と罪なお方や。アーメン。

Lying eyes (1年) <イーグルス> arr by 伊藤明博  
いよいよお待ちかね1年生の登場です。今年は仲々渋い曲にトライしたようですが、外見通り元気一杯、豪快に歌い上げます。KW '79 これからヨロシクお願いします。

Harmony (1・2・3年合同) <エルトン・ジョン> arr by 小林正治  
ハーモニーと僕、二人はとっても似合いだったじゃないか。君を忘れられないんだよ。だから君と離れるなんて夢にも思いたくない。一部は、美しいラヴ・ソング“Harmony”によって幕を閉じます。

**ジャンルは問わない  
一度来てみる  
ただそれだけ**

新しい感覚を先取り  
しているあなたに  
いつもナウな音楽を



COFFEE & WINE  
MUSIC ROOM

TEA TIME 10:00 ~ 18:00

DRINK TIME 18:00 ~ 1:00

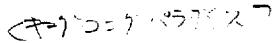
港区芝3-31-6 454-9193

**TAKE5**  
テイク  
ファイブ

## 第 2 部 TRY

### II 部 特集『Hot Rhythm』

ここ数年来の音楽界(いわゆるポピュラーミュージックとしての)における、レゲエ、サンバといったところの、より民族臭のする音楽様式の流行は、ニューウェイブ、テクノポップといわれる音楽などと共に、新たな音楽界の方向性を示すものとして注目されるところでしょう。まさに生活の中から生まれたそれらの音楽も、よりポピュラー化の中で、単にそのリズム形体のみを拝借などといった風に様々に分化されてきました。そうした中で、日本のミュージシャンたちも、これらの新しい波をどういう風に受けとめているのでしょうか。歌謡曲のメロディーラインにサンバのリズムといった具合に、そんな日本人のあつかうサンバ、レゲエといった曲に今年は焦点をあててみました。題してホットリズム、いかがでしょうか。

あの川を渡ろう (1・2・3年合同)  arr by 伊藤 明 博

特集オープニングは、1、2、3年揃ってどっと賑やかに迫ってみたいと思います。思わず駆けだしたくなるこのリズム、めずらしく野性の叫びをお聞き下さい。

津軽ツアー (津軽民謡 ホーハイ節) (1・2年合同) arr by 伊藤 英 治

“ホーハイ、ホーハイ”ばかり言っている日本の民謡も、リズムを変えればこんな具合に。でも最近は本当の民謡よりも、この方が親しみ易くなっているのかも知れません。

チャタヌガ チューチュー (2・3年合同) arr by 伊藤 明 博

なんとわけのわからないポルトガル語に一同呆然。のりの悪さは雰囲気でもカバー、はたしてどうなりますことやら。原曲はグレンミラー楽団でなじみ深く、最近ではディスコアレンジされたものも聞かれます。

Worry Beads (2・3・4年合同) arr by 野 色 栄 三

特集最後の曲は、2、3、4年でレゲエに挑みます。曲が始まったとたん、このイントロと一見くるって聞こえるハーモニーが、あなたを第三世界に連れて行くでしょう。この曲、実はお月様をたたえている曲なのです。



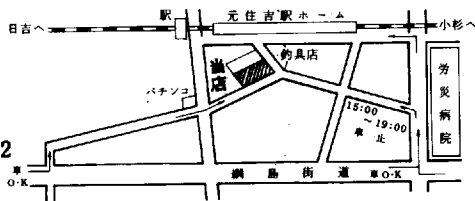
あなたも会員になりませんか!

ジャズ・ロック・ヴォーカル・ニューミュージック等毎月発売の優秀レコードを取揃えて会員の皆様にリースします。詳細は御来店の上

# 円 盤

川崎市中原区木月2・392  
TEL 044(433)9211

営業時間 平日12:00~8:30 日曜2:00~7:00



# 第 3 部 CRY

## THIS IS SINGOUT OF KW

### Back Band Time

3部のOpeningは、バックバンドのInstrumentalで始まります。

**Down on the corner (1・2年合同)** <クリーデンス・クリアウォーター・リバイバル> arr by 伊藤英治  
往年のヒットメーカーのC, C, Rのこの曲もよく歌詞を読んでも、わけのわからぬ単語ばかり、でも聞いたとたんに踊りだしたくなるリズムに乗って、若さみなぎる1, 2年が徹底的に歌います。

**Midnight prowler (2年)** <ジョン・デヴィット・サウザー> arr by 池田俊宏  
Los Angelesの裏街にわけもなくたむろする若者達。あてやかに映えるネオンサインに紫色の煙が漂う。このイキなうたは、あなたの耳にどのように響くだろうか。Little Feat 風 West Coast 演歌の決定版。

**It makes no difference (2年)** <バンド> arr by 伊藤英治  
かつて、愛を失った心をこれほどにもダイレクトにエネルギーに表現した歌があったらどうか。「太陽は輝やかず、雨は私の心の扉を打ちすえる、同じことさ。」

**Time is a thief (3年)** <ケイト・ブラザーズ・バンド> arr by 松井弘樹  
ふと訪ずれる空虚な時間、自らの過去をふり返って空費した時間を思いおこす。その時、もう一度最初からやり直したいという、かなえられぬ望みが膨らんで来る。しかし、時間は冷酷にすべてを奪うのだ。

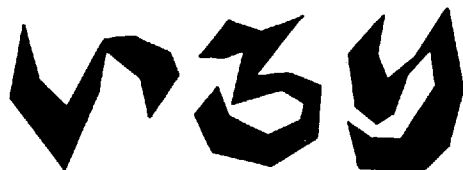
**You've got a friend (3年)** <ロバータ・フランク & ダニー・ハサウェイ> arr by 岡本敦哉  
「あなたが私の名を呼ぶだけで、私はどこに居ようともあなたに会いに飛んで行く・・・」。我々KW'77にぴったりの曲です。全員で心をこめて歌います。

**Last Show (3年)** <ニュー・イングランド> arr by 伊藤明博  
より現実の生活、その幸福に固執する女、「早くラストショーを終えて私の許に帰って来て。」と叫ぶ声も、新たなロマンを求めて去っていった男に聞こえることもない。二度と結びつくこともない2人に、けれど以前の2人の生活は決して忘れることはできないものとして……。

時代箏箏・古時計・時代木土品・古陶磁・伊万里焼

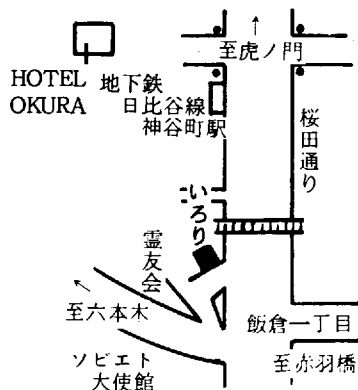
ぬりもの・古い木綿・泥人形その他

古民芸  
古美術



東京都港区麻布1-7-4 TEL (586) 8105

A.M. 10:30~P.M. 7:30 日曜定休



Poor Boy (4年)

<スーパートラップ> arr by 大阿久 雅 広

私たち4年生も、最後の定期演奏会を迎え、いよいよクラブ生活に終止符を打とうとしています。各人忙しい中あまり練習ができませんでしたが、最後まで全力で歌いたいと思います。では、第一曲目。

A man I'll never be (4年)

<ポストン> arr by 橋本 武 寛

この題の意味は、私はあなたの望むような男になれないということです。ところで、女の子はどういう気持ちで歌っているのでしょうか。とにかく最後の学年曲、今までの思いを込めて歌いたいと思います。

## — ENDING BLOCK —

横たわるマルシュアス (3・4年合同)

words&music by 大阿久 雅 広

マルシュアスとは、音楽神アポロンに腕自慢の笛で挑戦して敗れたギリシア神話中の人物です。耐え難い苦境の中で生まれ、心の支えとなったこの曲、今あなたに捧げます。

Don't ever wanna lose ya (2・3・4年合同) <ニューイングランド> arr by 伊藤 明 博

“愛する人を、君を、失いたくない。”非痛な叫びのリフをバックコーラスが盛り上げます。より攻撃的な音で、圧倒的にエンディングへと続きます。

Cool change (1・2・3・4年合同)

<リトル リバーバンド> arr by 伊藤 明 博

エンディングは1, 2, 3, 4 年全員の大 Sing out で飾ります。- Cool change - これまでの自分を見つめ直し、このKWに集まった個々が、新たなる決意を胸に歌い上げます。

そして風の詩<sup>うた</sup>を (1・2・3 4年合同)

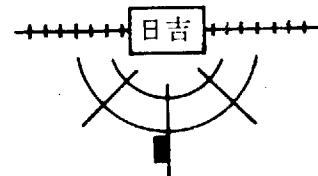
words&music by 小林 正 治

私たちが夢を見はじめた時、季節の風が動いた。旅いそぐ君よ、なぜ歌わない。こんなに胸をふくらませているのに、ほんとうの旅はここにあるのに、たとえば風に向かっていくように。そして今、風の詩を……。

— 祝 第14回定期演奏会 —

音楽は素<sup>うた</sup>晴し友だち

- 貸ホール
- 各種レコード・楽器



東横線 山響楽器  
日吉駅前

日吉駅前中央通り

TEL 044 (63) 5511